

○議長 横尾 武志君

1 1 番、益田議員の一般質問を許します。益田議員。

○議員 1 1 番 益田美恵子君

こんにちは。益田です。一般質問をさせていただきます。最後でございますので、よろしくお願いたします。

まず、東日本大震災を契機として防災教育に注目が昨今集まっております。気仙沼市では、明治、昭和の三陸津波やチリ地震津波で壊滅的な被害に遭ったことから、津波の記念碑を設置したり、映像や振動による津波の擬似体験館を日本で初めて建てたりして、風化防止に努めていたにもかかわらず、3・11で1,000人を超える死者が出ました。その原因について、A氏は「知らないうちになれが出てきたのかもしれない」と指摘をされております。

震災の2日前には「津波が来る」と言われたにもかかわらず何もなかった、そのことによって今回も大丈夫と思った人は多かったと言われております。そのためにも、やはり「継続は力なり」と言われるように、継続的にそういった避難体制の周知徹底とか、そういった教育をやっていくべきではないか。

また、非常食の用意やその避難ルートの確認とか家族での集まる場所の決定のほかにも、防災教育の推進や地域住民への避難の周知徹底などが今叫ばれているところでございます。

まず初めに、防災教育、学習の有無が幼保・小中の実態についてお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

学校教育課のほうからは、幼稚園・小中学校の実態について述べさせていただきます。

幼稚園・小中学校ともに防災教育は実施しております。幼稚園は、2園で幼児であることから、訓練・体験を通じて学習をさせています。例えば、①サイレン・非常ベルを鳴らす、②放送により指示を出す、③避難を開始させるといった訓練により、命の大切さ、素早い避難の重要性を学習しております。訓練の種類としては、火災訓練、地震訓練などです。

小中学校では、教科、道徳、特別活動、総合の時間などで生命尊重、公德心、思いやり及び規範意識等を育む学習を通じて、いわゆる知識の学習をしております。その上で防災週間、8月30日から9月5日などを使って、全校集会などで防災の心がけや実際の行動様式等を指導しております。

また、特に、芦屋東小学校では、県教育委員会の研究指定、実践的防災教育総合事業を2カ年受け、大学教授など専門家の指導でワークショップ形式により、みずからの命を守る上で必要な判断力、行動力を高める研修を行っております。

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

中学校では、福岡管区気象台の専門技術官を招聘して、自然災害についての理解と防災の研修を行っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

町内の保育所の防災対策の状況を説明させていただきます。

厚生労働省が示す保育所保育指針及び消防法に基づき、町内の保育所では毎月火災や地震などの災害に備え、避難訓練を実施しております。また、保育所によっては災害以外のいろいろなケースを想定して、避難訓練の回数をふやしているところもございます。

このほかにも、ある園では東日本大震災以来、9月と1月に防災の日を定めて非常食を試食したり、防災について園児と先生が話し合いをしているところ、また別の園では緊急地震警報機を設置したり、職員が毎年救命講習を受けて非常時に備えているところもあり、今後の計画として竜巻への対応も予定されているなど、総体的に対策・訓練等がしっかりされているものと考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

各単位で一生懸命取り組んでいらっしゃるようでございます。ただ、これが短編的でないようにしていただきたいと思うんですけど、毎年これは実施されているのでしょうか、お願いいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

小中学校では毎年行っております。例えば、先ほど言いました、実践的防災教育総合事業というのは県の指定でございますので、年数に限りがあります。東小学校におきましては、平成24年、25年度の事業でございます。中学校でも、この事業を利用して、24年度に、先ほど言いました、専門技術官を招聘したということでございます。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

保育所につきましては、先ほど申しましたとおり、避難訓練についてはもう毎月実施して、各園で実施しておりますので、しっかりされております。それと、東日本大震災以降の取り組みの非常食の試食、こういったものは新しいもので、これも以後毎年ですね。それから、竜巻につきましてもこれからある園では毎年取り組んでいくという方針のもと、防災対策を進めていくというふうに聞いております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

すごいなと思って今聞いているところでございます。本当に、災害が起きてからでは右往左往しなきゃならないという問題点が起きてきます。私自身も、その大きな災害に、台風で1回玄関のシャッターが壊れたというのはこうありましたけれども、倒壊するところまでは行っておりませんでしたので、本当にこの最近起こっている状況が異常な状態であるなとこう思われるわけですね。そういったのが、芦屋町にも来ないというわけではないと、どこでも起こり得ることが現在はあちらこちらで起きているんだということを専門家の方は言われてるわけですが。

積乱雲が近づいてくるときには、本当に真っ黒い雲が近づいてきたときには大変この怖い感じがするわけですがけれども、そういった積乱雲の状態とか、そういったものも子どもたちに教えていく必要があるのではないか、真っ黒い雲が近づいたらどうするか、雷の音が聞こえてきたらどうするかとか、急に冷たい風が吹くというのがそのメカニズムのようでございます。

そういった場合においては、本当に、また低い場所にいたら水が流れ込むおそれ、川にいたら増水する危険性、広いグラウンドや公園などでは雷が落ちる可能性がある、こういったこともやはり常々教えとくというのかな、学習をお互いにやっていくという、その場合において、その速やかに安全な場所に避難しましょうと言われても、避難する場所が、私もいつも考えてるんですが、うちは浜口公民館に、避難場所が一番近いわけですね。しかし、海拔どれぐらいかといったら、もう西川とか氾濫してきたら、もう全く太刀打ちできない、じゃそこからまた逃げるといったらまた大変ですから。

だから、今言われているのは、第一避難場所、それから第二避難場所、第三というふうに、そういった訓練を常々やっていく必要があるんじゃないかと、このように言われてるわけですが、せっかく、しっかり今取り組んでいらっしゃるようでございますので、そのまま継続して、24、25で切れるところにおきましては、何らかのまた手だてをやりながら、ほかの方法でもこう訓練をやっていたきたい。

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

で、先日から竜巻がございましたね、埼玉のほうで。それで、栃木に翌日こう竜巻が起こったわけですが、そのときに男性の方が、「きのうは埼玉の災害状況を見て大変だなと思っていた。それが翌日には自分の身に降りかかるなんてその思いもしなかった」って、これがやっぱり想定外と言われるゆえんではないかなと思いますね。

で、現在の状況だったら本当にどこにでも起こり得る、それから、九州が特に、今年の7月にありました豪雨ですか、あれがすごく、一つの警報になっているようでございます。これは福岡市のほうでございますから、何も遠くはないわけですね、福岡県の中ですから。やはりこれを定期的に続けていっていただきたいと、このように思います。

それでは、2点目ですけれども、災害備蓄について質問をいたします。

九州の公立学校の防災備蓄割合は福岡県が一番低いと言われているわけですが、芦屋町立学校での備蓄率というのはどの程度なされているのか、お尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

お答えします。

学校内においては飲料水、非常食等の災害のための備蓄は行っておりません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 小野 義之君

芦屋町地域防災計画におけます食糧供給体制の考え方についてご説明いたします。

災害に備える備蓄は、基本は住民、家庭や地域などですが、自助共助による備蓄で行政は公助の考え方から補完的、広域的な備蓄調達体制の確保に努めることとしております。食糧の備蓄に当たり、地域の事情に応じた備蓄品目の選定を行うとともに、備蓄品目の性格に応じて、山鹿部では現在、総合体育館、また芦屋部では役場において集中備蓄に取り組んでおります。内容は主となる水を、1リットル換算ペットボトルで2,500本、米を1,200食、その他乾パンやリッツ缶など4,000食程度を保存している状況でございます。

なお、大規模災害発生後は行政などの支援が困難になる可能性があることから、住民に対しては3日分相当の食糧の備蓄を行うよう啓発を行ってまいります。

また、災害により混乱、途絶している市場流通がある程度回復する間の食糧を、コンビニやスーパーなどの町内業者との供給協定の締結等の方法により、円滑に確保できる体制を今後構築してまいりたいと考えています。

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

以上が、備蓄に関しての考え方でございますが、避難所の区分について若干ご説明いたします。

防災拠点としまして総合体育館及び中央公民館を現在、指定しております。大規模災害時に住民が一時的に避難する場所として、町が公共施設に設置しております。また、家屋が焼失・倒壊・流出した方の応急仮設住宅への移転までの避難所としても考えております。学校施設につきましては、中学校を防災副拠点、小学校を広域避難所としております。防災拠点への避難者が多く、施設の受入能力を超えた場合の避難所とするものでございます。

先ほど地域でということも言われましたけども、自治公民館につきましては、一時避難所ということになりますので、一時避難していただいて災害の程度によって、また、そういった拠点避難所あたりに移動するというような考え方でございます。

そういうことから、学校施設におきましては、今、学校教育課長、申しましたように、食糧備蓄をする考えがないということを補足説明させていただきます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

小学校が広域避難所といえども、総合体育館はもう山鹿関係ですよ。橋がもしあそこで寸断されれば、芦屋の人が行けるわけはありませんので、その場合においては芦屋地区の人は中央公民館なり、ここの庁舎なりという形になるかと思うんですが、何が起こるかわからないのが今のこの備蓄の問題なんですよ。例えば、じゃあ道路が寸断されてここまで来れない、やっぱり小学校が一番近かったとか、そういった場合において、最低でも3日分ぐらいは備蓄を必要とするんじゃないかと言われてるのが今の捉え方なんですよ。

だから、福岡県は3%しか進んでないそうです。一番全国的に備蓄率が進んでいないという、もちろん、その、今おっしゃるように、頭からそこを考えていないということがちょっと私もこう解せないんですけれども、やはり避難所としているからには何らかの形として、1日でも2日分でもいいからやはり蓄えておく必要性があるんじゃないかな、このように思うんですね。その場合に、子どもとか地域の人もそこを拠点として来ますし、例えば、登校日であって何か起きたときにはそこに寝泊まりをするような形になる。じゃ、その場合においてはどうするのか、その点はどうなんでしょう。よそから持ってくる、誰かが運転して持ってくるという形と捉えるんですか。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 小野 義之君

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

幅広い箇所に備蓄できればよろしいんでしょうけども、ある程度予算の関係もございますし、まあ、この備蓄というのが今現在、水にしても 5 年ぐらいしかもちませんので、それで買いかえたりしていきます。

通年は、3 年から 5 年の中でその品物の補充ちゅうんですか、そういった形で町のほうとしては今備蓄をしてきたんですけれども、基本的には先ほど言われた、3 日分といいますか、3 日分で 300 人程度の食糧を備蓄していくという考え方の中でやってまして、それをどこで備蓄するかというのが、先ほど申しましたように、山鹿部では総合体育館に置いておりますし、遠賀川ございますので、芦屋部におきましては、現在、役場のほうに置いてます。

今後、その辺の学校への必要性というところについては、議員さんご指摘の部分もございまして、どの程度置けるかというのは、また今後の課題だろうと思っておりますが、現在、そういう振り分けの中で進めているのが現状でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

新聞の見出しの中にも、「文部科学省の調査で大規模災害時の避難拠点として期待される学校の備蓄が不十分な実態が判明した。児童や生徒だけでなく地域住民も一定期間滞在することを考慮し、対策を急ぐ必要がある。これまで、学校の災害対策はできるだけ早く安全に子どもを帰宅させることに主眼が置かれてきた」、東北の場合もそうですね。以前は家に帰らせることをこう主にしたけれども、とにかくまず自分が安全なところに逃げなさいと、まず自分の命を守んなさいということで指導をやってきてる。その場合において、じゃ家に帰せない場合においては、もうその学校にとどめるちゅうか、だから、その場合に多くの方が、東北大震災の場合ですね、多くの方が帰る家を失い、学校などの避難所で長期の生活を強いられた。救援物資が届き始めるまで最低 3 日分の水や食糧を備えておくべきだと指摘する専門家もおりますということで。

それと、学校関係、お尋ねしたいんですが、文科省は震災後、学校防災マニュアルを作成し、防災体制の充実を全国の教育委員会に求めてきたと言われてるんですが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

教職員の防災教育という話になるんだろうと思いますけども、確かに、文科省が「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」だとか、県教委も教師用の指導資料を、「防災教育

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

（地震）」というのをつくって配布していきまして、学校の場合はそれらをもとにして、ある程度学校に、自治体においてはマニュアルづくりをしておりました。学校の教育計画の中にはそういう、避難訓練的なもの入っておりました。

で、先ほど課長も申しましたが、地震と、従来防火、火災の訓練をよくやってきました。あれ以降地震に対してもやって、年間 2 回ほどは実施しておきまして、その際に、この防災マニュアル等使って、それを生かしていくと、そういう形で行っております。

何よりも、議員がおっしゃったように、自分で自分の命守れというのが最初だろうと、自助といいでしょうか。まあ、あの津波の中で、昔からあります「津波てんでんこ」という話があったように聞いておりますけど、その際に、やっぱり自分がどこに逃げるか、どうすればいいかという、まさに、自分で考え、判断して行動するということが大前提だろうというふうに思っております。そういう観点で、学校教育も生きる力を育むという形で行っておりますので、そういう観点で指導はしております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

今年の 8 月 30 日に、特別警報運用開始が、命を守るための新基準というのが発令されてるわけですが、やはりその中でも気象庁の長官が言われてるのは、命にかかわる非常事態が迫っていることを知らせる情報が強くなってるわけですから、今回ですね。だから、直ちに命を守る行動をとってほしいという話をしている。

それからまた、もし自分の住んでいるところで大雨が降ったらどうなるかを想像し、事前に行動を決めておくことが大事というのが、これが常日ごろから、教育の分野においても、家庭においても、地域においても、そういった取り組みをやっていく必要があるのではないかと。特に、先ほども言いましたように、2011 年 9 月、紀伊半島で大きな被害が出た台風 12 号、それから九州においては昨年 9 月の九州北部豪雨を教訓としてと言われてますので、この北部豪雨もこの特別警戒の中に入っているということになってるわけですね。そうしてみますと、九州でも避けて通られない問題ではないかと、このように思うところでございます。

それでは、先生の、職員の防災教育についてはどのようなことが行われているのか、お尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

県教育委員会等による教職員対象の研修は実施されていませんが、文部科学省からの「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」や県教育委員会作成の教師用指導資料「防災教育（地震）」が配布されており、それらを使って校長の指導のもと校内研修を実施し、それに基づく訓練を行っております。具体的には、火災訓練、地震・津波訓練などです。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

当然現場の先生方ですから、先ほどお聞きしましたら、いろんな取り組みをなされてますので、その中で先生方はともに訓練をしていただいているものと思われまますので、今後ともその点については持続してやっていただけるようお願いしたいなと思います。

それから、先ほどの備蓄の問題については、これはやはり耐震化が、国においても耐震化をメインにこうやってきてきましたので、経済的な面で自治体が進んでないのが現状であるということにはなっておりますが、やはり最低限の備蓄をできるように考えていただきたいなと、今後の課題としていただきたいと思いますが、この点については、最後、お願いいたします。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 小野 義之君

学校施設につきましては、議員のご指摘もでございますので、学校関係等、どういった備蓄のやり方ができるかというのは検討してまいりたいと思っておりますけれども、備蓄の基本は先ほど申しましたような形で現在進めてます。で、必要数がどの程度要るかというのは、考え方もございませけれども、基本的な考え方は町内にいますコンビニとかそういう民間の中で供給体制を構築するということも踏まえて考えていきたいと、そうしないと、飲料水とか食品とかいうのはどうしても更新していかないといけないもんですから、それも踏まえて総量については考えていきたいなと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

じゃ、その点については、地域については、やはりそこにあるファミリーマートとかセブンイレブンとか提携をやって、今言われるような体制づくりをやってるところもありますので、それについてはよろしくお願いいたします。

平成 25 年第 3 回定例会（一般質問）

続きまして、熱中症対策についてでございます。

史上最高の猛暑日が 9 日間もあったと言われる 8 月、家の中においても熱中症にかかって搬送された方もおられたわけですが、学校では夏休み中ではありましたが、部活またスポーツクラブのメンバーにおかれては、猛暑の中、練習に励んでこられたことと思います。もう予報では、9 月の気温も例年よりも高いと報じられておりました。学校も始まり、部活また体育授業、小学校におきましては運動会の練習等が始まりますが、現在、その熱中症対策として、今、噴霧器つき大型扇風機——ミストファンと言われるものですが、導入する学校がふえてきておると聞いておりますが、学校においてはこれを取り入れられる計画があるかどうかをお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

現時点ではありません。今年のような異常気象が続くか疑問ですが、暑いのは確かです。エアコンは各学校とも、校長室、職員室、保健室、図書館、会議室、コンピューター室に導入しています。現状の避暑対策については学校によって異なり、山鹿小学校ではプレハブ校舎の 3 年、5 年となのはな学級にエアコンを設置しています。1 年、2 年、4 年及び 6 年には、PTA から寄附された冷風機が 1 台ずつあり、ひまわり学級には扇風機が 1 台あります。

また、芦屋小学校には各教室に 1 台の扇風機があります。芦屋東小学校と芦屋中学校にはありません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

それについても、例えば、暑さ対策について、まあ、エアコンはちょっとお金もたくさんかかりますから、それは別といたしましても、何か対策を講じてほしいという、PTA なり、父兄からの要望というものは現在までありましたでしょうか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

学校・PTA 含めて、扇風機とか、空調ということも、話もあったこともありますけど、そういう形で話があったということだけは過去にもありました。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

それでは、各クラスまたは体育館等に温度計は設置されていますでしょうか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

温度計は設置されていないというふうに認識しております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

私は2階に住んでるわけですが、もう本当、30度を超えるときがあります。これは取り入れてる、ミストファンを導入している町に3日に、議会が始まる前の日に視察に行ってみりました。苅田町なんですけど、苅田町の教育委員会に視察の申し出をいたしましたら、気持ちよく受け入れていただきまして、担当課長さんは議会中でしたが、荒津中学の校長、教頭の両先生に丁寧な説明をいただき、また対応していただきながら、ミストファン、それからこちらはミストファンと製氷機、扇風機の3種類のものが導入されておりました。

なぜ、そういったことになりましたか、導入の契機になりましたかと言ったら、やはりこの2年ぐらい前から導入をしている、昨今の気候が今までとは違う気候に変動していつてる。だから、どうしても子どもたちは以前とは違って体力がないし、やはり物すごく暑さにも弱いと、そういったのもあって導入に、まあ、「行政のほうからいただきました」と言ってありましたけれど、「行政が提供していただけましたので、気持ちよく受け取りました」と言うてお話はされておりました。苅田町は、中学校が2校あって、小学校が6校あるんですって。ほいで、各校8校に1台ずつ、それはリースで、リースだそうです。で、必要な時期だけにリースでやるということですね。

それから、それは部活等、それから一般の、クラブがございますよね、野球クラブとかサッカークラブとか、そういった人たちがやるときにそれを設置してあげる、当然その近くには電源があり、電源は、まあ、ちょっと引けばいいわけですから、コンセントを差し込んで長い、水も必要になりますからということで、水はホースです。バケツでしたら「暑いときでしたからもう大変でした」と、60リットル入るらしいんですね。「それをバケツで持って行って、入れたら本当に疲れましたね」なんて言うて、教頭先生がそう笑っておられましたけれども、それが物すごく、休憩時間に扇風機を回すと霧が出てくる……、もう本当に気持ちがいいんですね、ぱっ

と。べしょべしょにはなりません。もう爽やかな感じでありました。

そのミストファンが 8 台入っていることと、それが、製氷機は気分が悪いときに職員室に設置をする、職員室に置いとって気分が悪いときに氷をもらいに……、結構立派な氷が、大きな氷ができておまして、それは各校に 1 台ずつ、勝手には使えないようになってるそうです。先生の許可をもらってタオルに包んでそれを首筋に当てたりしながら、暑さ対策をやっていく。

それから、扇風機は先日見てきましたら、ちょうど入ったばかりで、その中学校は、先生がおっしゃってたのは、「ちょっと問題がありましてですね」という感じでおっしゃってたんですが、「ちょっと荒れた時期がありましたので、扇風機は今年入れました」、ほかのところは早く導入してたらしいのですけれども、30 台用意がされておりました。たまたま 3 日の日は少し雨が降って涼しかったので、教室には持って行っておりませんが、ということで、まとめて置いてあるところを写真に撮ってきました。後でごらんになってください。これを 2 台ずつ前と後ろと、風を要するに出すということですね。熱を出す、風を送って熱を出すということの意味合いで各クラス 2 台ずつ。

それから、体育館には 4 台の大型扇風機というのが、何か足が三脚になってましたけれども、これを 4 台置いてやはり熱を出す。その「温度計をつけてありましたか」と言ったら 37 度になっていると、「熱が上に上がりますので 37 度になるんですよ」って、体育館の中が。それで、「女の子が熱中症にかかって救急搬送されましたけれども、措置が早かったことで事なきを得たんですけれども」と言って、こうおっしゃってましたけれども。

やっぱり、そういった熱中症というのがどこで起きるかわからない、外でもあるでしょうし、中でもあるという、家の中でも起こるといふぐらいですから。何とかそういった、まあ、温度計がつけてないから、何度あるかちゅうのはちょっと確認がとれませんけれども、やっぱりそういった設備もちょっとこう必要かなというふうに思います。何かあってからでは遅いんじゃないかと、このように思うわけですが、この点について、今は置いてないんですが、置くつもりもないのか、どうなのか、まあ、将来的にどうなのか。私は何となく何か寂しいな。向こうの教頭先生がおっしゃってましたよ。「芦屋町は教育に力を入れておりますね」「はい、そうです」って言いましたよ。この際とばかり、「町長初め、教育長が一生懸命なので」、あの、議会もあとそれつけ加えました。「議会も後押しをしております」って。「この辺、すごく力を入れておりますね」って、よくご存じな方で、中学校にバスケの何か練習で「数回来たことがあります」って、その教頭先生はおっしゃってました。その「力を入れておりますね」のところにもう一つ何かこの後ですね、ちょっとご意見聞かせていただだけませんか、何かいい方法で。よろしくお願いします。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○議員 11 番 益田美恵子君

いや、どなたでも。

○教育長 中島 幸男君

じゃあ、私のほうで前座のほう務めさせていただきます。

本当に、今年は暑うございました。この暑さが常態化するものか、今年が異常なのかということで、このエアコンにつきましても、かつて、この議会でも話題になったことがございます。その際には、まだ今年ほどございませんでしたから、子どもたち、頑張らせましょうというような言い方で、まだつけませんということをして言っていました。

エアコンにつきましても、議員もおっしゃいますように、相当高いものがかかるようでございます。実は、先日、インターハイが北九州の総合体育館で高校の全国大会がありました。4日か5日間、卓球があっこであったんですが、あれで、4日か5日間の間に650万円ぐらいエアコン代かかったんだそうで、これはとてもやないね、という話があつてました。そういうこともありまして、学校でつけるのはつけてもランニングコストがとてもやないなということで、非常にきついと。

で、よく高等学校つけてるじゃないかという話をされます。で、高等学校の場合、保護者がお金を払ってます。大体、月1,000円取ってるようでございます。そして、暑いときは空調で、そして冬は暖房で、半年ぐらいやっぱり使ってるということで1,000円ということで、義務制の場合はそういうわけにいきませんので、これやっぱりランニングコストを考えるとやっぱり非常に無理だろう、エアコンにつきましてもは。

ただ、今おっしゃいましたように、その扇風機だとかミストファンですか、ミストファンにつきましても、多分昇降口に置いてあるんだろうというように想像します。部活が済んでこう入ってきたときにクーラー借りるとか、いうことなんだろうと思いますが。扇風機につきましても、今おっしゃいましたように、その一つは、芦屋小学校が耐震のときに、ちょうど夏から耐震工事かかりまして、非常に暑かったもんですから、あのときはレンタルを、扇風機をお借りいたしました。そういう事例はございます。

今後、この扇風機等どうするかということもあるんですが、一つはやっぱりこの温暖化の一つのもとになるような気もするんですね、電気どんどん使うことについては。そういうことも裏腹で、非常にこうどうかなと思いつつも、この間も校長と、学校の校長とみんなで何とかならんかという相談したら、その今、窓が腰の高さまでしか窓が……、下まであくとも随分風が通るねという話がありました。まあ、それは工事費がかかります。

それからもう一つは、上のほうに天窓みたいなのがありまして、あれが窓があくと対流してい

いねという話がありました。これも工事費がかかるんですけど、そういうこともその検討はしてみます、すぐやるという話ではございませんが、そういうことで、できるだけ子どもたちに、快適などまでいきませんが、この暑さを少しでも温度を下げるようなことを、やっぱり考えていけないといけないという時期ではあるのかなというふうに認識しておりますが、さあ、すぐどうしようというところは、これはまた町当局と相談しながら考えていってみたいというふうに思っています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

確かに、教育には非常に、芦屋の子どもたちは芦屋で育てるといって、一つの大きな柱を持ってやらしていただいておりますが、これといわゆる環境整備ということがイコールになるのかどうかということであるわけですが、まあ、荻田町行かれたそうですが、ご存じのように、荻田町は不交付団体でありまして、非常に財政豊かな町でございます。

この教育のことにしましては、もうお金を幾ら積んでも積み足りないということはない、もう幾らでもこうあるわけですが、今から取り組もうとしておところが I T 教育の問題で、パソコン導入で子どもたちに早く、この情報化社会というのは物すごい速さで進んでおります。子どもたちに早くそういう情報教育をしなくちゃいけないということで、先日も町長会、議長会、それと 4 町の教育長と一緒に武雄まで行って来たわけですが、非常に先進的なところでございますが、そこに先生たちみんな i P a d を持たせておるといって。

で、芦屋町も何とかそれに追いつこうという形の中で、その前提としては先生方にまず、まあ、いわゆる先生方お一人一人に、卓上ちゅうんですか、役場の職員が皆さん、提案のありますように、パソコンまずそれを、先生方がまずみずからそれを使いきらないと生徒あたりに教えることができないだろうということ。それから、電子黒板ですよね、これも導入しなくちゃいけないということで、その辺についての予算化をどうするかということで、今現在、そのことで進んでおるわけですが、それでもってきて、この、今聞いたらかなりな、まあ、どんな補助金があるかわかりませんが、まあ、いい補助金があるのかどうかということなんです、まあ、導入はできたとしても、今度はランニングコスト、今言われたように、非常に大きなランニングコストがかかってくるのではないかと考えております。

限られた財源の中での配分でございますので、どこまで子どもたちにいい環境のもとで学校での学習ができるかどうかということは、ちょっと、益田議員から問題提起をしていただいたということで、受けとめておきたいと思っておりますので、ご容赦いただきたいと思っております。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

よくわかりました。たくさん教育には力を注いでいただいておりますので、やっぱり教育こそは人をつくるわけですから、これはもう基本中の基本であります。ただ、その中においてもやはり命があってのものでございますので、命を守るという意味合いにおきましても、何らかの手だてを、どれぐらいの温度があって、どの程度のものというのを把握していただきながら、やはり一緒に導入なんてことはとても無理なことでございますので、何が一番ベストなのか、ベターなのかとかを考えていただいて、取り組んでいただきたいと思います。

それから、最後でございますが、熱中症と思われる事例が現在まであったかどうかを最後にお聞かせください。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

現時点ではありません。各学校では、熱中症対策として、①健康観察の徹底、②帽子・水筒持参の徹底、③温度による外遊びの制限、④スポーツドリンクの常備、⑤運動場にテントを設置、⑥小まめな水分補給と規則正しい生活習慣の指導を行っています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

じゃ、今後とも学校教育、よろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、益田議員の一般質問は終わりました。